

今シリーズ展開中は、 「教学改革実態調査」で全国の大学に伺います

今号の特集はいかがでしたでしょうか。シリーズ「学習者中心の教学改革を推進する」の展開中、高等教育研究室VIEW21大学版編集部では、『VIEW21』をお送りした全国の大学を直接お訪ねし、右記のような内容のヒアリング調査を実施しています。小誌編集部からの連絡がありました際には、ぜひとも、調査へのご協力をお願いいたします。

ヒアリング内容

- 教学改革の現状
- 教学改革の課題
- 改革の成果
- 今後の改革の方向性 など

編集後記

◎今までの誌面では、グラフや図表の数字を使った展開に、比較的高い評価をいただけてきました。それは、読者の方々がこれらのエビデンスによって、納得された結果であったと思います。半面、教育の場では、大学の先生方は自己の経験を中心に判断され、数字面での評価はあまり使われてこなかったとされています。こうした中で、IRを使って数字で判断するという文化を大学にも浸透させていくことは、十分に可能だと思います。競争的資金の獲得においても、文部科学省への提出書類のフォームにIRの実施等の項目が入っており、今後の改革検証等のフェーズでも、こうした数字での判断・評価の活用はどんどん増えていくことでしょう。手間はかかりますが、こうした地道な積み重ねが、日本の高等教育を諸外国の高等教育と国際比較可能なものにする礎になっていくと思います。今回の特集取材を終えて、IRの大切さを強く実感しました。

(広瀬)

◎IRをテーマに全国で取材を進めると、必ずしもポジティブな反応ばかりではありませんでした。その背景には「無理やりやられるもの」「評価や批判の材料に使われるもの」という捉え方があるようです。しかし、今回事例としてお話を伺った大学に共通しているのは、IRはあくまでツールの一つであり、それを実施すること自体が目的ではない、という認識があることです。それよりも、まず解決すべき課題（危機）意識があり、それを可視化するための一手段としてIRを活用しておられます。特に、何よりもまず「学生をどのように成長させるのか」からスタートしておられるのが印象的です。IRが学内に根付くかどうかは、組織論や技術論よりも先に、目の前の学生にどんな力を身に付けさせるのか、そのために今不足していることは何か、その不足を埋めるために今できることは何か、といったことを、学内全員が本音で議論できるか否かにかかっているようです。

(村山)

次号は9月中旬発行予定です

VIEW21 大学版 2015 Vol.2 夏号

2015年6月17日発行/通巻第12号

発行人 山崎昌樹

印刷製本 (株) ビーヴィオコーポレーション

編集人 春名啓紀

編集協力 (有) ベンダゴ

発行所 (株) ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所

執筆協力 二宮良太
撮影協力 川上一生

VIEW21大学版編集部 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2丁目1-1 新宿三井ビルディング13階

問い合わせ先 [フリーダイヤル] 0120-731015

受付時間/月～金8:00～19:00 土8:00～17:00 (祝日、年末・年始を除く)

©Benesse Corporation 2015